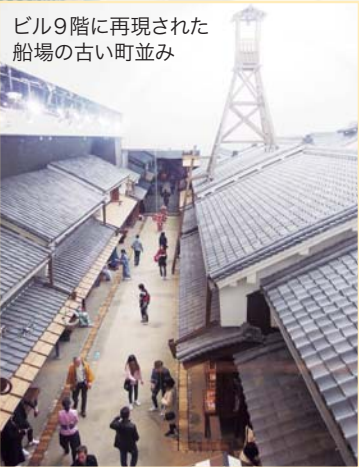


大阪くらしの今昔館 大阪府

四百年の今昔館
平成二十九年九月二日

観光立国をめざして



ビル9階に再現された船場の古い町並み



着物姿の外国人旅行者で賑わう入り口



模型で再現された明治の町並み



近代の古い通りの模型に見入る小学生



昭和の家電も展示されている

路地裏はタイムスリップした気分になる



着物姿で畳に座るアジア人旅行者



文・ジャーナリスト、平野幸夫（ひらの・ゆきお）元毎日新聞論説委員、日本ベンクラブ会員。毎日放送ラジオのニュース番組コメンテーターを務め、2015年から関西学院大学で「現代ジャーナリズム論」「日本語文章表現」などの授業を担当。著作に「新地方自治の論点」「サラリーマン三日の旅・金沢」などがある。

「上方の町家体験」が大人気
江戸時代と明治以降の町並みを再現した「大阪くらしの今昔館」（大阪市北区天神橋6）が、外国人旅行者らに大人気だ。
日本一長いアーケードがある天神橋筋商店街に2001年オープン。当初、入館者は約10万人程度だったが、関西国際空港への格安航空会社（LCC）の乗り入れ増などに伴い、昨年は約57万人と激増。一度訪れた若い韓国人旅行者らが「貸衣装の着物姿で歩くと、昔の日本に住んでいる気持になれる」とネットで、心地よさを伝えてから、特にアジア旅行者の間で評判になった。
ビル9階には船場の商家が再現され、人間国宝だった落語家、桂米朝さんの声で案内され歩くと、江戸時代の路地裏に迷い込んだ気分になる。銭湯、薬屋、小間物屋などの屋内は日本人も懐かしさを覚える。
学芸員の服部麻衣さんは「自然素材の畳で寝ころんだり、縁側に座ると、ほっとした落ち着くようです。外国の方はアニメで知った日本の生活が体験できるのが魅力なのでしょう」と話す。一般600円。